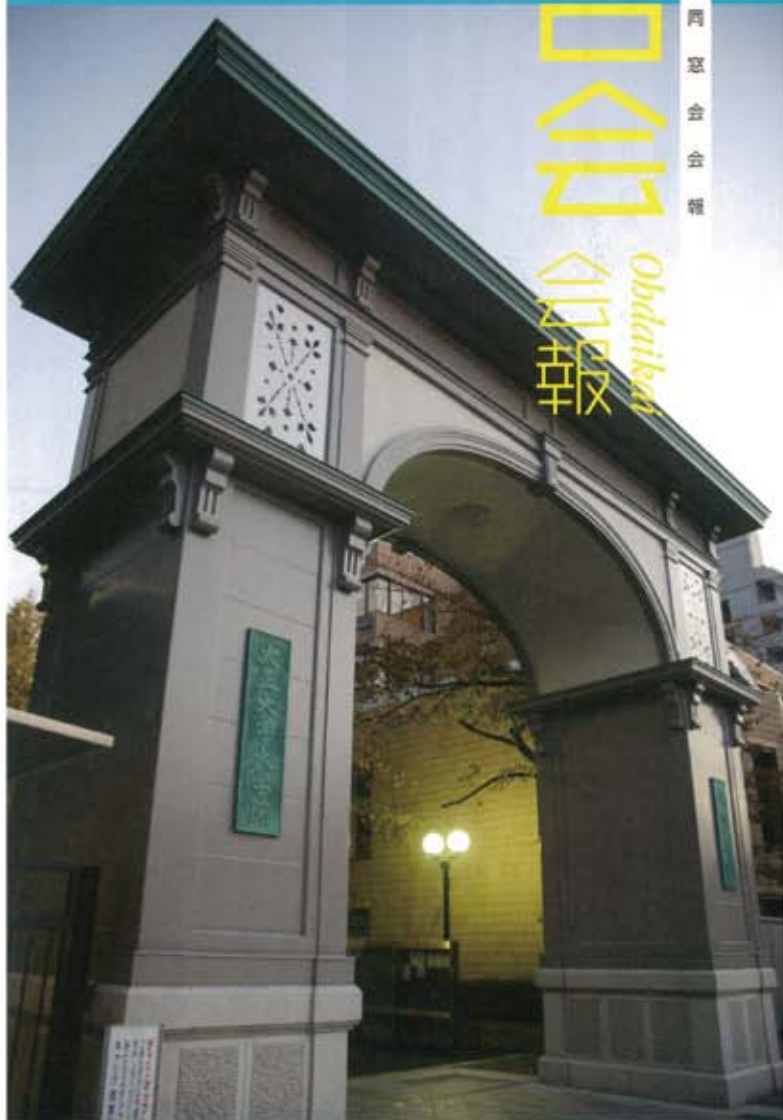


鴨台会 会報

Obataikai



特集

本学が描く新しい大学のあり方
TSR(大正大学の社会的責任)とは

- キャンパスの今を伝える @Taisho University
- オープンキャンパス・全国進学相談会
- 同窓会ニュース 支部日より

2009 September

VOL.91

平成21年9月1日発行
大正大学 同窓会「鴨台会」
〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1
TEL.03-5394-3031 FAX03-5394-3014

特集

本学が描く新しい大学のあり方

TSR(大正大学の社会的責任)とは

今、キャンパスに足を踏み入れると、工事車両が頻繁に行きかう姿が目に入る。中期マスタープランに基づく、キャンパス改造計画が着々と進行中だ。ハードはもとより、ソフト(教育体制)も、時代の要請にこたえてますます充実が図られようとしている。本学が目指す新しい方向性について、事務局長・柏木正博氏に話をうかがい、その展望を共有していききたい。

建学の精神を進化させたTSR

携帯電話もなかった数十年前。ご自身の時代と比べて、今の学生のありようにとまどい

を感じる同窓生の方も多いただろう。

同様に、大学も大きな変革を迫られている。昨今の経済情勢を見ても明らかかなように、現代の企業は自らの利益を追求するだけで評価を受け、生き残っていくことはできない。大学においても、果たすべき社会的責任を一層認識することが求められているのだ。柏木事務局長は言う。

「CSR(企業の社会的責任)の概念を大学運営に活かすことができないかという発想からTSR(大正大学の社会的責任)への取り組みが始まりました。社会のニーズはもとより、今や8割以上が宗団の子弟ではない一般学生となるなど、学生が本学に求める価値観も著しく多様化しています。TSRは本学が学生や社会に対して、何をすべきなのか、ど

う関わっていくのか、これからの本学のあり方そのものを問う試みでもあるのです」。

変化の時代。自らの使命を問い、その具現化のために意識を共有することは、大学の存在を示す上で非常に重要だ。検討を重ねていくうちに、あらためて建学の精神「智慧と慈悲の実践」、即ち「思いやりの精神」が浮き彫りになる。これをベースに新しい教育ビジョン「4つの人となる(慈悲・中道・自灯明・共生)」を打ち出した。

「大学が果たすべき責任は、人材の輩出と研究成果の還元ですが、それらは本来、一方的に外に向かって与えるという関係ではありません。学生が社会と関わりながらいろいろなことを学ばせてもらい、他方では卒業生が社会に貢献するといった相互に影響し合

う関係であるはずですが。まさしく、目的に向かって共に努力していく『共生』であり、当然のことながらそこには思いやりの心が必要でしょう。大学を取り巻くステークホルダー(学生、卒業生、地域、社会など)全員が満足し、相互に信頼できる関係を構築することで、社会的責任を果たし、ひいては本学の評価が高まっていく。ここに至って、人や社会との関わりを一層深めていくという本学の方向性が見えてきました。ある同窓会関係の方に次ページの概念図をお見せしたら「曼荼羅そのものじゃないか」とおっしゃっていました。大学のビジョンや目標を中心に置き、そこからステークホルダーが広がっていくイメージは確かにその通りです。まさに建学の精神を進化させることになったわけですね」。

同窓会会報
リニューアルにあたって



同窓会「鶴台会」会長 大室了皓

発展する同窓会を 大室了皓

少子高齢化は社会の各方面に、大きな課題を与えています。大学の運営も瀬戸際に立たせられています。

今年の大学受験生の状況を見ますと、入学者が定員を割った私立4年制大学が265校もありました。これは全体の46.5%にも及びます。

大正大学を志望した受験生の数はどうだったのでしょうか。

定員を過かに上回っていたことを知って胸をなでおろし、改めて母校への誇りを強くしました。

大学当局、特に教職員の方々の絶え間ないご尽力のたまものであると考えざるを得ません。

大学では本年2009年度より、大正大学未来づくり計画の具体化を目指し、今後の発展に備えています。

現在、新教育棟の建築が進み、約8千平方メートル規模で来年春の竣工を目指しています。ここに収容する施設としては、学生厚生施設（ラウンジ）、大教室、中教室、実習室、体育施設等が予定されています。

その他、各分野に於いて「未来づくり」が進められていくことになっています。来春の入試が楽しみです。

本学同窓会は現在約2万5千人の会員を抱えています。連絡の取れない会員が少なくないのが頭痛の種で、解決模索中です。我が同窓会は昭和27年11月に設立されていますので、平成24年には設立60周年を迎えることになります。8月末に、60周年記念事業の検討委員会を開き、今後の同窓会及び大学の発展を見据えて実のある事業の展開を期しているところです。

会員諸兄の絶大なるご協力を願って所感の一端と致します。

来型の教育では対応が難しくなっています。メディアの問題でも、教育、社会福祉の問題でも、それぞれが複雑に絡み合っており、専門別の縦割りの教育、教員主導で知識を与え、といったスタンスのみでは、社会貢献、つまり大学としての社会的責任を十分に果たすことができないのです。『街（社会）に出て学ぶ』。これが、時代に対応した大学教育を展開する上で、最も重要です。さらに、専門の垣根を超えた汎用性の高い『総合力』を身につけさせることが必要になってきます。授業におけるフィールドワーク、キャリア教育におけるインターンシップ等に注力している点もTSRの戦略であり、地域・社会とのネットワークづくりをこれまで以上に推進していきたいと考えています。一例として、アーバン福祉学科環境コミュニケーションコースで、山形県在住の職者を各員教授に招き、循環型社会を構築する農業プロジェクトによる地域再生事業に学ぶプログラムを立ち上げ

ましたが、こうした取組みを進展させていくためには、卒業生の皆様のご活躍されているフィールドを活かしたお力添えが不可欠です。ご指導、ご提案を歓迎します。

柏木事務局長の言葉からも、社会が求めるのを待つのではなく、自ら社会に出て責任を果たしていこうという積極的な戦略がうかがえる。現在構想中とのことだが、ステークホルダー全体を対象とした新たな事業モデルも練られているという。

「卒業生の皆様はもちろんのこと、本学を支援して下さる企業、地域、社会の方々をも包括したメンバー組織を作り、各種サービスを展開する構想を持っています。ステークホルダーすべてのライフデザインを生産にわたって支援できる体制を整えつつあり、これも本学が目指すところの一つです。」

「エンロールマネジメント」という考え方がある。学生一人ひとりの個性を踏まえて、入学から卒業後まで一貫して支援していこう

というものだが、このように今や大学の取組みは学内という空間と4年間という短い時間を超越した、発展的なものとなっている。一人ひとり違う興味、価値観、さらに高齢化社会を迎えます。多様化しているライフスタイルに応え、学習・キャリア・生活を生涯を通じてきめ細かく支援していくことで、大学に対する学生、ステークホルダーの満足度が上がっていく。

「社会から信頼され、敬愛される大学を目指すことは今も昔も変わりません。TSRはその実現に欠かせない戦略であり、機能であり、推進力なのです。この紙面をお借りしまして、卒業生の皆様と本学が歩むべき道を共有できましたら幸いです。」

伝統を今に伝える正門をくぐると、キャンパスの奥では現在8階建の新教育・研究棟（仮称）、2階建のクラブ練習棟（仮称）の建築が進んでいる。さらには仏教・歴史資料館（仮称）の建設、ランドスケープによる

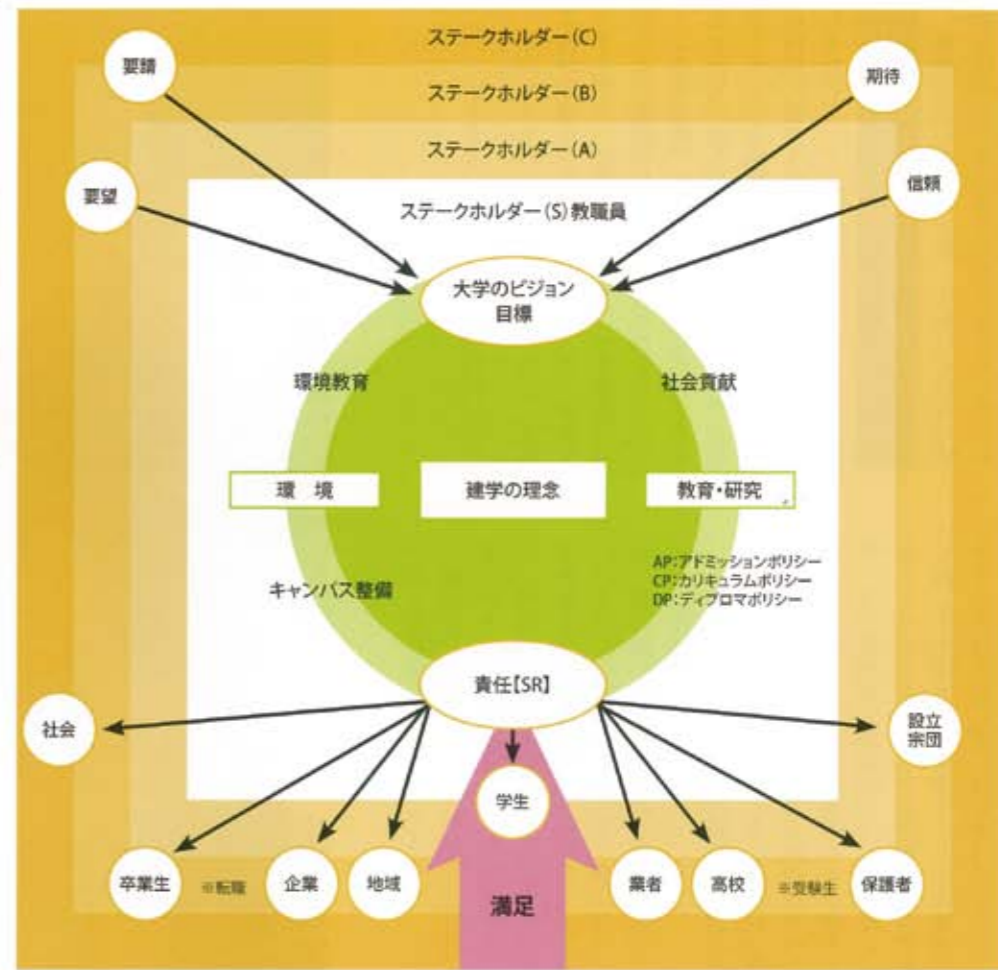


キャンパス美化にも今後着手する予定だ。もちろんこれらの計画もステークホルダーの満足というTSRの視点から構想されている。大正大学の挑戦はこれからも続く。

同窓会組織と手を携えて社会貢献を

TSRでは大正大学が果たすべき社会的責任として、次の5つを挙げている。具体的には、

- ①教育・研究の充実
- ②社会・ステークホルダーへの貢献
- ③大学倫理の確立
- ④コンプライアンスへの組織的取組み



TSR (Taisho Social Responsibility) 概念図

⑤環境問題への取組みの責任である。

これらは一つひとつ独立したものであるが、相互に深い関わりを持っている。同時に、すべて各ステークホルダーとの関係性抜きにしては語ることはできない。

「卒業生の皆様に対しては、同窓会を中心として諸活動を支援させていただいております。」

ですが、皆様のご活躍は形を変えた大正大学の社会的責任の実現であり、とりもなおさず在学している学生の励みになり、なおかつ本学の評価を高めることにもつながります。

このようにステークホルダーとの関係は表裏一体であり、皆様とさらに密接な関係を築くことが、TSRの大きな目的でもあるのです。

学生ばかりではなく、関係するステークホルダーすべての満足度を高める取組みにおいて、卒業生が果たす役割は大きい。これまで、各地域住民とのネットワークを持つ僧職者の方々の諸活動に負うところが大きかったが、さらに広い立場からの貢献が期待されている。

「同窓会支部と本学が連携し、さまざまな活動をする中で、2007年に職域部会が組織されました。教育、行政、福祉などの職域、ゼミサークルなどを単位として、大学を支援するとともに、情報交換、親睦を深めることがその目的で、本学としてもこの活動を応援していきたいと思っています。」

昨今の学生の就職先を見ても、メーカー、情報・通信、卸売・小売、金融・保険、サービスなど実に多彩だ。それだけ社会における接点が多くなっていることになる。

「現在、本学同窓生数は約2万5千人。ぜひ多くの方々に母校に目を向けていただき、ご支援賜りたいと思っております。あわせて、諸サービスの充実とともに、大学改革の推進こそが、卒業生の皆様に対して本学が果たす責任であり、職員一丸となっておお一層努力していく所存です。」

柏木事務局長は、ステークホルダーとの関係を「エンゲージメント」（双方の成長に貢献し合う関係）であるという。経済の

グローバル化、テクノロジーの進歩、また終身雇用、年功序列といった従来の企業体系が崩れつつある中、社会に出てからもキャリアアップを維持するための継続的な学びが必要になってくるであろう。高齢化社会において生きる拠り所となる仏教、宗教学、国際社会で欠かせない異文化、比較文化研究、福祉・メンタルヘルスといった今日的な問題を担う人間学等、大正大学には他に誇る先進的な資源が多々ある。リカレント教育として、こうした諸機能・研究成果も卒業生に積極的に開放されていく。

「従来から開講しているオープンカレッジはもとより、さらに専門的なニーズに応え、社会人の方が受講しやすい大学院の体制も整えつつあります。また、これからは、キャリアアップの側面においても、大学から社会へという直線的な関係ばかりではなく、社会に出てからも折に触れて学び、さらにその成果を社会に還元するといったらせんの関係も顕著になってくるでしょう。同窓会における情報交換、また生涯学習の場として、卒業後も本学を大いに活用していただきたいと思っています。」

在学生に、あるいは広く社会に経験を伝え、活性化していく。同時に自らも学び、成熟していく。そこには、今までにない質の高い社会貢献の形がある。目指す理想は限りなく高い。

「社会で起きているさまざまな問題は、従

ステークホルダー（関係者）すべてのために

大学と社会との接点において、キーパーソンとなるのは言うまでもなく卒業生である。その上で、TSRでは、さらに大きな広がりイメージする。

2009年度 全国進学相談会スケジュール

本学の入試アドバイザーが全国各地に出張して入学に関するご相談に応じる「全国進学相談会」を下記のスケジュールで開催しています。遠方でオープンキャンパス等に参加できない方も、ぜひこの機会をご利用ください。当日は予約不要、入退場自由。複数大学の合同相談会となります。

開催地	開催日	曜日	開催地	会場	開始	終了
茨城	9月15日	火	水戸	水戸プラザホテル	15:00	18:00
神奈川	11月10日	火	横浜	横浜新都市ホール (横浜そごう9F)	15:00	18:00
東京	11月11日	水	新宿	新宿NSビル (イベントホール)	15:00	18:00
埼玉	11月12日	木	大宮	大宮ソニックシティ	15:00	18:00
千葉	11月13日	金	千葉	ペリエ(千葉駅ビル)	15:00	18:00
静岡	11月15日	日	静岡	ツインメッセ静岡	11:00	16:00
東京	11月18日	水	新宿	新宿NSビル (イベントホール)	15:00	18:30
埼玉	11月19日	木	大宮	大宮ソニックシティ	15:00	18:30
埼玉	11月20日	金	川越	川越東武ホテル	15:30	18:30
神奈川	11月27日	金	横浜	横浜新都市ホール (横浜そごう9F)	15:00	18:30
神奈川	3月20日	土	横浜	横浜新都市ホール (横浜そごう9F)	10:30	16:00
埼玉	3月22日	月	大宮	大宮ソニックシティ	10:00	16:00
東京	3月27日	土	有楽町	東京国際フォーラム	10:00	16:00

<入試に関するお問合せ・ご相談>

大正大学アドミッションセンター
TEL:03-3918-7311
受験生向け総合情報サイトも開設しています。
<http://www.tais.ac.jp/admission/>

毎年、本学への熱い志を抱いた高校生、若者達が集まるオープンキャンパス。今年度も六月から開催され、各回とも好評を博しています。2010年度より「文学部」「表現学部」「人間学部」「仏教学部」の4学部7学科18コース体制となり、文系総合大学としてさらに進化を遂げていく本学に対し、受験生達も大いに期待を寄せています。本学の教育における社会的責任を果たすべく、今後も内容の充実に向けた努力を続けていく所存です。本学の新展開にご期待いただきますとともに、機会がございましたら、ぜひお気軽にキャンパスをお訪ねください。



<入試相談会 会場:本学>
9/26(土) 11/3(祝) 12/19(土)
13:00~16:00

※11/3(祝)は银杏祭(学園祭)と同時間開催です。

入試アドバイザー、学生スタッフによる個別相談会を行います。予約は不要です。また、大学案内・入試要項など一式を無料配布します。上記の日程以外にも「受験生応援スペース」にて随時キャンパス見学が可能ですので、お気軽にお問合せください。

本学の魅力を発信!

「オープンキャンパス」「全国進学相談会」開催中

昨今の厳しい社会情勢の中、昨年度卒業生においては、ほぼ学生個々の希望を達成し、社会へ巣立っていきました。これも、保護者、同窓生の皆様のお力添えがあったからこそ存じます。この場をお借り致しまして、御礼申し上げます。本学では、2005年の「キャリアエデュケーションセンター(CEC)」開設をはじめとし、キャリア教育に力を注いで参りました。その多角的かつ柔軟な諸プログラム、学習コンサルタントとキャリアコンサルタントを配した親身な支援は、一層厳しい状況が予想される今後の就職戦線においても大きな成果を発揮するものと期待しております。時代とともにキャリア教育に対するニーズは、ますます高まってきました。社会人基礎力、つまり社会で生きる力の育成が喫緊の課題とされているわけですが、従前の大学教育で正課外教育として扱われてきたこの領域を、本学では「第3の教育(ザ・サードエデュケーション)」と位置づけ、積極果敢に展開してまいります。具体的にはCECが主幹する「キャリアデザインゼミ」「キャリアプランニングゼミ」「特設講座」等に加え、TAP(大正大学アドバンテージプログラム)等により、個々が思い描くキャリアを志向しながら、生きる力を獲得してまいります。本学は2009年3月、「中期マスタープラン」とその基盤となるTSR(大正大学ソーシャルレスポンスビリティ)II社会的責任)シッパを策定しましたが、その中でもキャリア教育は重要な位置を占めています。言うまでもなく、地域や社会、ステークホルダー(関係する人々)の期待や要請に応えることが大学の使命であるわけですが、同時にそれらとの接点、関係をより強固にしていけることがますます必要です。

建学の精神である人を思いやる心。周りや環境、社会のために、自分には何ができるかを考え行動に移すこと。そこから実践と協調が必要であることがわかってくる。つまり、最も確実な「生きていく力」は、社会とのかかわりの中で育むことができるのです。本学のキャリア教育では、大学で学んでいる時から社会との接点を持つ機会を多く作り、社会に出てから活かせる汎用的な能力を身につけてもらうことで、社会に貢献できる有為な人材を育てていくことができると考えています。

求人のご依頼・お問合せは
「キャリアエデュケーションセンター」にて承ります。
TEL:03-5394-3022(直通)
FAX:03-5394-3067

社会人のための同窓会「職域部会」

本部会は、会員が従事する各職域を通じ、今日めざましく変化する社会経済の情報ステーションとしての幅広いネットワーク作り、会員相互の向上と大学(在学生)への寄与を目的としています。また、様々なイベント開催等を予定しております。同窓会員各位には、ふるってご登録いただきたくお願い申し上げます。ご登録については、同窓会本部事務局へお問い合わせ下さい。

さらに、2009年4月新たに大学の関連機関として一般社団法人「大正大学キャリア教育研究所」をスタートさせました。中核事業としてTAP講座をコーディネートするとともに、高校との連携、インターンシップ等における社会との連携を推進、プログラムを開発してまいります。また同所では、卒業後のキャリアの再構築も含め、多岐にわたるキャリア支援を実施していく構想です。このように、本学では常に時代や社会を見据えたキャリア教育を展開してまいります。引き続き、皆様のご支援をお願いいたします。

@ Taisho University



本学の取組み、頑張る現役学生の様子など、キャンパスのホットなニュースを集めてお届けします。後輩たちへ温かいご声援をお送りください。

TSRとザ・サードエデュケーション 次世代ビジョンに基づいたキャリア教育を展開



図書館は同窓生の方々もご利用いただけます。詳しくはお問合せください。



今も昔も学生が集まるのはやっぱり学生食堂。唐揚げ定食が人気メニューです。



受験生をかわいいキャラクターが迎えてくれる受験生応援スペースもできました。



昨年夏に設置された新正門。キャンパスを訪れる人々を賓客たっぷりに迎えます。



ランドスケープでさらに緑豊かに。キャンパス美化計画も進行中!

学生の明るさと伝統がマッチしたキャンパス。その今の様子を写真でご紹介しましょう。

キャンパス西薬鴨NOW

平成二十一年度理事会報告

平成21年6月25日(木)、本年度大正大学同窓会「鴨台会」理事会が開催された。本年度理事会に上程された議案と審議内容は以下の通り

1号議案 役員選任の件(理事会構成の件)
 昨年度理事会以降の支部・部会役員変更の届出に伴う本部役員選任について以下の通り審議された。

宮城県支部 足田運泉氏、千葉県支部 一島正真氏の2支部長交代に伴い、新たに両支部より新任支部長として、宮城県支部 樋口隆信氏、千葉県支部 土川峰仙氏がそれぞれ副会長に選任された。また、千葉県支部より選出される理事には、杉山俊明氏の交代で弘海高正氏が選任された。これらの人事は、5月22日(金)に行われた常任理事会の議を経ており、本会の承認議決により正式発効された。

2号議案 平成20年度事業報告の件
 昨年度開催された各種会議を始め各支部および部会や同期会等の活動が報告された。特に支部・部会・同期会等の活動は、総会は13支部・合同総会は1ブロック(中国・四国ブロック)・理事会は9支部・公開講演会は2支部(千葉・愛知)・同期会は11回また、大学共催事業として大正大学フェア(北海道ブロック)・ホームカミングデイ(11月3日)の開催が報告された。

3号議案 平成20年度決算及び監査報告の件
 別表(決算書)参照
 4号議案 本部提案の件(大学より提案)
 大学側より鴨台会基金の取扱いについて、昨年の改正施行した「公益法人法」に伴い同窓会「鴨台会」に保有する積立金(決算書)について学校法人大正大学の基金に繰り入れ保管し運用については別途委員会を設立し運用管理する。という

提案がなされた。また、現在大学で推し進められている改革「TSR (Taisho University Social Responsibility)」に伴い同窓会会員のための縦横的支援サービスとしてメンバーシップ制「鴨台クラブ(仮称)」を設立することが提案された。

(※学校法人が主体的に取組む事業とすべく現在検討中)
 同窓会「鴨台会」大室了昭会長より、昨年度理事会で承認を受けた「同窓会設立60周年記念事業および同窓会再編に関する検討委員会」の経過報告がなされた。また、本年度も同窓会「鴨台会」賛助会費の募集が検討された。以上4件について審議検討された。

5号議案 平成21年度計画書の件
 例年通りの計画案に追加新規事業として在学生奨学金制度・クラブ(課外活動)助成・银杏祭補助について審議検討された。

6号議案 予算書式(項目等)変更の件
 上記計画案執行に伴う予算書式(項目等)変更について審議検討された。

7号議案 平成21年度予算案の件
 別表(予算書)参照

8号議案 その他
 愛知県支部 安部隆亮支部長(同窓会「鴨台会」副会長)より同支部内で検討されてきた愛知県支部特別事業「戦没者慰霊法要及び慰霊碑建立法要」の本部移譲について説明があり審議検討された。

以上の議案について原案通り議決された。
 本年度理事会の議事の中で、大学側より大学を取り巻く社会状況や環境の変化に対する学校法人としての対応方針が示された。同窓会「鴨台会」としても歩調を合わせた対応を求め

られることとなる。現在、同窓会「鴨台会」では、同窓会設立60周年記念事業および同窓会再編に関する検討委員会に於いて平成22年(2012)に迎える同窓会創設60周年記念事業の策定を急ぎ検討中であるが、前述の如く山積する重要課題についても取り急ぎ結論付けなければならない。同委員会に検討されるこれらの諸問題は常任理事会を経て理事会上程される運びとなる。今回の理事会で、今後の同窓会「鴨台会」は個々の同窓会会員はもちろん在学生や其々の社会環境のニーズを考慮し運営政策を展開する必要があると認識された。そのためには、より一層の大学との連携が重要であり会員相互のより強固な結束が要求される。



平成21年度 大正大学同窓会予算書

自平成21年4月1日 至平成22年3月31日 (単位:円)

収入の部				
項目	今年度予算	前年度予算	増減	備考
I 終身会費	30,195,000	30,502,500	△307,500	学費等40236名(7,500円)の負担額(40236×44.16)
II 預金利息	3,200,000	3,500,000	△300,000	
III 賛助会費繰入金	5,000,000	5,000,000	0	
IV 雑収入	50,000	50,000	0	寄付金・雑収入
V 繰越金	8,542,264	4,179,388	4,362,876	
合計	46,987,264	43,231,888	3,755,376	

支出の部				
科目	今年度予算	前年度予算	増減	備考
I 支部等事業費	24,500,000	15,700,000	8,800,000	
1.会報発刊費	2,000,000	1,500,000	500,000	高松会費等
2.会報・鴨台誌送付	7,000,000	6,500,000	500,000	1200名×5000円
3.講演会費	1,500,000	1,200,000	300,000	山形県支部等
4.旅費交通費	5,500,000	1,000,000	4,500,000	東京・名古屋・大阪・福岡・札幌・仙台・仙台・仙台・仙台
5.支部等事業助成金	8,500,000	5,500,000	3,000,000	支店・支店・支店・支店
II 在学生支援事業費	8,400,000	3,200,000	5,200,000	
1.新会員歓迎費	3,600,000	3,200,000	400,000	学費等(1200名×3000円)
2.在学生助成金	4,300,000	0	4,300,000	400名×10000円(4000名×10000円)
3.银杏祭補助金	500,000	0	500,000	400名×1250円(4000名×1250円)
III 本部運営費	8,100,000	9,050,000	△950,000	
1.会費	3,500,000	4,700,000	△1,200,000	理事等(100名×35000円)
2.通信費	500,000	500,000	0	
3.事務費	2,000,000	2,000,000	0	
4.庶務費	500,000	300,000	200,000	
5.消耗品費	100,000	50,000	50,000	
6.雑費	300,000	300,000	0	
7.人件費	200,000	200,000	0	
8.渉外費	1,000,000	1,000,000	0	
IV 積立金	0	14,002,500	△14,002,500	
V 予備費	5,987,264	1,279,388	4,707,876	
合計	46,987,264	43,231,888	3,755,376	

平成20年度 大正大学同窓会決算書

自平成20年4月1日 至平成21年3月31日 (単位:円)

収入の部				
項目	予算額	決算額	増減	
I 終身会費	30,502,500	31,165,000	△662,500	
II 預金利息	3,500,000	4,362,025	△862,025	
III 賛助会費繰入金	5,000,000	5,000,000	0	
IV 雑収入	50,000	0	50,000	
V 繰越金	4,179,388	4,179,388	0	
合計	43,231,888	44,706,413	△1,474,525	

支出の部				
科目	予算額	決算額	増減	
I 事業費	19,900,000	15,485,258	4,414,742	
1.会報発刊費	1,500,000	1,749,667	△249,667	
2.会報・鴨台誌送付	6,500,000	5,846,727	653,273	
3.講演会費	1,200,000	600,000	600,000	
4.新会員歓迎費	3,200,000	3,024,000	176,000	
5.旅費交通費	1,000,000	352,508	647,492	
6.支部等事業費	5,500,000	3,505,663	1,994,337	
7.渉外費	1,000,000	406,693	593,307	
II 会費	4,700,000	4,813,610	△113,610	
1.理事会費	3,000,000	3,357,510	△357,510	
2.諸会費	1,700,000	1,456,100	243,900	
III 事務費	3,350,000	1,865,281	1,484,719	
1.通信費	500,000	246,820	253,180	
2.事務費	2,000,000	1,362,261	637,739	
3.庶務費	300,000	236,625	63,375	
4.消耗品費	50,000	8,701	41,299	
5.雑費	300,000	10,874	289,126	
6.人件費	200,000	0	200,000	
IV 積立金	14,002,500	14,000,000	2,500	
V 予備費	1,279,388	0	1,279,388	
合計	43,231,888	36,164,149	7,067,739	

△印 予算の減額を示す

収入の合計① 44,706,413
 支出の合計② 36,164,149
 差引残高(①-②) 8,542,264 (平成21年度へ繰越)

同窓会賛助会費決算書

自平成20年4月1日 至平成21年3月31日 (単位:円)

収入の部	
項目	金額
平成19年度繰越金	7,957,590
平成20年度会費	5,558,880
預金利息	6,544
合計	13,523,014

支出の部	
項目	金額
経常費繰入	5,000,000
賛助会費他額状印刷代	408,345
サイパン島型雲碑維持管理費	112,400
賛助会費払込取扱票印刷代	163,800
謝恩会助成金(6学科・専攻)	300,000
合計	5,984,545

収入の合計① 13,523,014
 支出の合計② 5,984,545
 差引残高(①-②) 7,538,469 (平成21年度へ繰越)

同窓会終身会費・積立金計算書

(単位:円)

項目	金額
積立総計(19年度繰越分)	646,187,500
本年度積立金	14,000,000
合計	660,187,500



た方・出席した方に亡き人や仏さまとのつながり、コミュニケーションを実感してもら。通夜・葬儀・法事の場において私たちは、それを可能とする他界観や死者観、念仏することの意義を明確にし、しかし決して教条主義的な堅苦しさのない形で伝えなければならない。—とご講義いただきました。

そして19時より、いろは雷電という寿司屋の二階で簡単ながら懇親会を催しました。当時の寮監でありました和氣先生の挨拶、お言葉、そして同級生の近況報告をそれぞれ一人ずつにしてもらい、懇親会は無事に解散となりました。

この長野大会を通して、それぞれの宗門で活躍する旧友たちに会い刺激を受け、また身を引締め浄土宗の発展のために邁進しようと感じた所存でございます。



第15回卒同期会 部員 辰定

昭和39年度(昭和40年3月)卒同期会は毎年都道府県場所を変えて開催しており、今年は千葉県が幹事県ということで、房総半島の南端鴨川市の「鴨川館」で30名の参加を得て6月8・9日の両日、ゆったりと温泉につかり日頃の疲れをとって開催された。この年になると、毎年誰かお浄土に旅立つ人が出て、世の無常を改めて感じる。宴に先立ち新たな二名の冥福を祈り献杯し、開宴となった。

乾杯の音頭は前天台宗務総長西郊良光君の発声で始まり、いっきに学生時代に戻り、寮生活のこと、部活のこと、授業に出たの出なかったことなど思い出話に華が咲き、さらにはお互いに身体のことを気遣ったり理屈めきの友情の確認をしながら、夜の更けるのも忘れ、楽しいひと時を過ごした。宴の最後には「校歌」を全員で声高らかに歌いあげ締め括った。8日当日にゴルフ好きの仲間が集まり、近くのゴルフ場でプレーを楽しみ汗をかけた後宴会に臨んだ人もいた。

翌日は、所用で朝早く帰る人、日光まで足を延ばそうというグループを除き、貸しきりバスにて日蓮聖人誕生の小湊誕生寺にお参り、鎌山の登山、東京湾アクアライン海ほたるでの買い物等を楽しみ、夕刻羽田、東京駅でまた来年の再会を約束して別れた。今回都合で参加出来なかった諸君、22年度の開催は「淡路島」です。来年こそ都合をつけて参加して下さい。楽しみにしています。

その後、再び大本願に戻りまして、同級生である浄土宗総合研究所研究員および大正大学仏教学科浄土学非常勤講師・吉田淳雄先生に「浄土宗の教えの特徴と有効性」という演題で16時30分より約80分ほど藤ノ間で講義を賜りました。ご講義のまとめとして、— 通夜・葬儀・法事を通して、我々の浄土宗の教えは、亡き人とのコミュニケーションに代わるものであり、私たち人間の感情や感覚に即した教えである。高邁な理論に依っていても、理論の根本で感情・感覚の共有がなくてはならぬ本末転倒である。念仏をお称えることで、参列し

ブロックの常任理事青野義昭様のご挨拶ののち、大正大学学長小峰彌彦様より大学のこれからをふまえてのご祝辞を賜り、同窓会事務局長陶山義憲様より同窓会の現状説明とご祝辞をいただきました。記念講演として、高知県立坂本龍馬記念館館長森健志郎様より、「やっぱり龍馬は生きている」と題して90分のご講演を拝聴、最後に各支部の現状と活動を報告いただきました。記念写真の後、「土佐のおきやく」を堪能していただきたく、席を移して土佐の料理と土佐のお酒で懇親会をもちました。高知県支部初代会長坂井智宏よりご挨拶、鳥取県支部長米田良中様は乾杯のご発声いただき、全員の自己紹介、同窓会主管正田精栄様からのご報告、高知県支部中島泰顕のお開きのご挨拶まで、和氣蘭々のひとときをもつことができました。



おかげさまで中国・四国合同同窓会のホスト役を無事務めることができました。大正大学学長様をはじめ、関係の皆様、ご参加を頂きました多くの同窓の諸先輩に、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

おかげさまで中国・四国合同同窓会のホスト役を無事務めることができました。大正大学学長様をはじめ、関係の皆様、ご参加を頂きました多くの同窓の諸先輩に、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



第15期生道心寮・浄土宗道心会研修会 長野大会 幹事 伊藤裕行

長野県の北に位置する善光寺は、本年4月から5月末日まで、6年に一度(数えの7年)の御開帳でございますので、それに合わせて、去る5月26日(火)から5月27日(水)、一泊二日で長野大会(大正大学第15期生道心寮・浄土宗道心会研修会)を浄土宗の本山であります善光寺大本願および善光寺で行いました。

まず最初に道心会会員十七名が、十五時から大本願表書院で台下よりご垂示を受けました。台下のご垂示の内容は、御開帳の由来・歴史等、そして遠方から来た方への労いのお言葉が十分ほどこされました。

その後、善光寺本堂において、出席者17名の各家先祖回向を浄土宗宿坊の諸大徳の皆様にお称えいただき、本来の目的でございます6年に一度の秘仏・一光三尊を間近で一人ずつ拝することができました。一光三尊中央の阿弥陀如来の右手に結ばれた金糸は五色の糸にかわり、白い善の綱として本堂前の回向柱に結ばれています。その回向柱に触れることは、前立本尊に触れるのと同じことであり、出席者全員今まで以上に阿弥陀如来と強い縁を結べたと思います。

その後、再び大本願に戻りまして、同級生である浄土宗総合研究所研究員および大正大学仏教学科浄土学非常勤講師・吉田淳雄先生に「浄土宗の教えの特徴と有効性」という演題で16時30分より約80分ほど藤ノ間で講義を賜りました。ご講義のまとめとして、— 通夜・葬儀・法事を通して、我々の浄土宗の教えは、亡き人とのコミュニケーションに代わるものであり、私たち人間の感情や感覚に即した教えである。高邁な理論に依っていても、理論の根本で感情・感覚の共有がなくてはならぬ本末転倒である。念仏をお称えることで、参列し

ついて改めて深い憂慮を感じられた次第で有ります。藤井先生には貴重なお話、本当に有難うございました。

さて先生のお話の後は、待ちに待った待望の懇親会、あとの二次会中洲のことが脳裏をよぎる中、ご臨席賜りました大正大学名誉教授・浄土宗大本山善導寺師法主、阿川文正台下の乾杯御発声の元、同調した我われの声も高々に、昔の写真を囲みつつ和かに時が流れていったようです。

前述のように少人数では有りましたが、和氣蘭々として有意義なひと時であったよう最後は全員で校歌を斉唱、副支部長・菊川春曉氏万歳三唱音頭の中、無事日程終了となりました。

今回は大橋主管にもいろいろご配慮を賜りまして、重ねて厚く御礼申し上げます。有難うございました。

ひるがえって、当支部の歩みを記すと、一時期、低迷した。

しかし二十数年に亘って支部運営を分掌し事務局を支え、支部の活性化に腐心された正田運泉前支部長(真言宗智山派)の根気強いご尽力に対し、心から感謝申し上げます。

「創立80周年記念、大正大学フェア」が仙台市で開かれたのは、平成18年9月18日。星野英紀前学長と東儀秀樹客員教授とのトーク&ライブは好評だった。1,200余の聴衆。大学と東北ブロック共催。

正田前支部長は、この行事を主軸に据え、東北ブロック組織の立ち上げ、支部規約の再編などその実績は大きい。もちろん四電亮真事務局長(天台)等の地道な努力があつてのことである。今後の支部活動の方向に燭光を灯したといえよう。

なお総会出席者は、真言宗智山派10(注・宮城には豊山派寺院なし)、浄土宗8、天台宗4、神道1、在家1だった。

三宗四派プラスアルファの本支部の今後については、新スタッフの提言をより多くいただき、可能な限り全員の役に立つよう、そしてより一層、和合する支部であるよう、これを目標としたい。

ひるがえって、当支部の歩みを記すと、一時期、低迷した。

しかし二十数年に亘って支部運営を分掌し事務局を支え、支部の活性化に腐心された正田運泉前支部長(真言宗智山派)の根気強いご尽力に対し、心から感謝申し上げます。

「創立80周年記念、大正大学フェア」が仙台市で開かれたのは、平成18年9月18日。星野英紀前学長と東儀秀樹客員教授とのトーク&ライブは好評だった。1,200余の聴衆。大学と東北ブロック共催。

正田前支部長は、この行事を主軸に据え、東北ブロック組織の立ち上げ、支部規約の再編などその実績は大きい。もちろん四電亮真事務局長(天台)等の地道な努力があつてのことである。今後の支部活動の方向に燭光を灯したといえよう。

なお総会出席者は、真言宗智山派10(注・宮城には豊山派寺院なし)、浄土宗8、天台宗4、神道1、在家1だった。

三宗四派プラスアルファの本支部の今後については、新スタッフの提言をより多くいただき、可能な限り全員の役に立つよう、そしてより一層、和合する支部であるよう、これを目標としたい。

ひるがえって、当支部の歩みを記すと、一時期、低迷した。

しかし二十数年に亘って支部運営を分掌し事務局を支え、支部の活性化に腐心された正田運泉前支部長(真言宗智山派)の根気強いご尽力に対し、心から感謝申し上げます。

「創立80周年記念、大正大学フェア」が仙台市で開かれたのは、平成18年9月18日。星野英紀前学長と東儀秀樹客員教授とのトーク&ライブは好評だった。1,200余の聴衆。大学と東北ブロック共催。

正田前支部長は、この行事を主軸に据え、東北ブロック組織の立ち上げ、支部規約の再編などその実績は大きい。もちろん四電亮真事務局長(天台)等の地道な努力があつてのことである。今後の支部活動の方向に燭光を灯したといえよう。

なお総会出席者は、真言宗智山派10(注・宮城には豊山派寺院なし)、浄土宗8、天台宗4、神道1、在家1だった。

三宗四派プラスアルファの本支部の今後については、新スタッフの提言をより多くいただき、可能な限り全員の役に立つよう、そしてより一層、和合する支部であるよう、これを目標としたい。



千葉県支部 同窓会主管 池田晃隆

平成21年5月16日(土)千葉市中央区「ペリエホール」に於いて、『平成21年度大正大学同窓会「鴨台会」千葉県支部総会』が開催されました。当日は、約50名の支部会員が集い積極的に発言をしていただき活気あふれる総会となりました。本年度総会では、昨年度事業報告及び決算、本年度事業計画及び予算の議題に続き支部役員任期満了に伴う役員改選が行われました。結果、支部長には土川峰仙氏、副支部長には松崎恵水氏、杉山俊明氏、弘海高正氏、事務局長には岩崎法道氏がそれぞれ就任し、以下理事を始め各役員の選任が行われました。終了後、小峰彌彦学長をお迎えし「芸文化より見る仏教」と題し記念講演会が執り行われました。千葉県支部会員の皆様には今後ますますのご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

高知県支部 事務局長 伊東聖隆

平成20年度の中国・四国地区合同同窓会では、高知県支部がホスト役をつとめ、会場を小説「陽気楼」の舞台となった得月楼様、日程を「盆梅」の時期に合わせて平成21年2月13日とし、梅花の仄な香につつまれた開催となりました。

中国・四国ブロックは、8県8支部からなり、各支部より32名の参加をいただき、殊に、大正大学学長小峰彌彦様、大正大学同窓会事務局長陶山義憲様、同主管正田精栄様のご臨席をたまわりました。また、参加者の多くが僧籍を持つ方々ですが、本会には一般学部卒業された3名の同窓の参加をいただきました。

総会は、午後3時に始まりました。高知県支部長海老塚和秀より歓迎のご挨拶、中国四国

支部・同期会トピックス

活発な活動を続ける同窓生の方々の近況、ニュースをお伝えします

加えて筆者が配った杉谷義純理事長(天台)のインタビュー記事(中外日報4月30日)を宇高教授は取り上げ、仏教学部を復活させる3学部体制に、更に1学部増の4学部になることをきっぱりと示唆。かなりの時間を割き、熱のこもった現状と将来について語った。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

福岡県支部 事務局長 田代俊幸

平成21年度支部総会を今年もホテル日航福岡を会場に6月29日開催致しました。開催するに当たり毎回問題になるのが参加人数で有ります。本年も事前の役員会で協議試行錯誤して参りましたが、思うように参加者が集らず15~6名と少な目の同窓会となりました。

しかしながら今回は参加者全員より貴重なご意見を拝聴致しましたので、次年度こそは更なる努力をもって動員力アップにつなげたいと思っております。

さて支部総会が有りますが、波多野支部長の挨拶に始まり、本部よりお出の大橋主管より大学の現状と報告を頂き次の講演となりました。

本年度は講師として、大正大学名誉教授・藤井正雄先生にご来福願ひ『生死の変遷と仏教』と題し、先生の青春時代のエピソードを冒頭に、西洋の生死観というもの、東洋の生死観というもの比べ、結局は両者がバランスを保たねば現代人人間性そのものの喪失、人間をとり巻く環境・高齢少子化・自死・いじめ等の問題について解決できないのではないかと説かれ、その熱のこもったお話に参加者一同、「いのちの尊厳さ」今日現代日本がおかれている状況に

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

いました。また、総会では会員から大正大学の宣伝があまりされていない、具体的には、地元の山梨県日日新聞などに首都圏の大学についての広告が載ったりするが、その中には大正大学が入っていないもっと宣伝をしたらどうかという意見が出され、また、寺院関係以外の同窓会会員にもっと関心を高めてほしい、事業費を増やして事業をして欲しい等活発な意見が交わされた。

陶山同窓会事務局長より大学の現状についてのご報告を頂き、中期マスタープランについてのお話や、現在卒業生の7割が寺院関係以外の方であり、職域部会等の活動を通して、卒業活動支援を行っている。また近く大学も90周年を迎える等のご報告を頂いた。

総会終了後、文学部歴史文化学科教授宇高良哲先生より「川中島の合戦について」と題したご講演を頂き、武田晴信(信玄)と長尾影虎(上杉謙信)は5回ほど戦っているが、実際に信玄と謙信が戦ったのは2回であろうとお話を頂いた。真に興味深いお話を頂きました。あの有名な川中島のある銅像のように、信玄が軍配を返して、謙信の一太刀をかわしたということもあながち嘘ではないものかとも思われました。

講演終了後会場を移して宇高先生、陶山事務局長さんにご出席頂き懇親会を行って旧交を大いに深めました。最後は参加者全員で大学の校歌を歌ってお開きとなり、楽しいひと時を過ごしました。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。



宮城県支部 支部長 樋口隆信

「宮城県支部の昨今」卒業以降、初めての支部報告担当である。54年目にして。

同期、同窓の消息。先輩、後輩の絆。恩師との出会いの喜びなど、同窓生24、829人が語り合い、連携する一つの場は会報であろう。読む側から、書く側へ。お付き合いの程を。

宮城県支部217名。会員数では全国52支部中、第14位。平成21年5月17日、仙台市、東京エレクトロンホール宮城(旧宮城県民会館)で総会。1割余にあたる24名の出席。小雨そぼ降る日曜日(のせいか小じんまりした会だったが、年齢差の壁はなく、終始和気あいあいであった。

文学博士、宇高良哲教授の記念講演「檀家制度の将来像について」

近い将来、人口が二分の一以下に激減する状況を踏まえて、足元から瓦解する檀家制度下においては、今日いかに対応すべきかを、資料を提示しながら具体的に説明。宗教人としての人間性言うに及ばず、この制度の利点を探るよう明示。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

埼玉県支部 事務局長 加中弘之

平成21年2月24日(火)大正大学の1号館2階大会議室と2号館同窓会ホールを会場にお借りして同窓会「鴨台会」埼玉県支部理事会を30名の出席を頂き開催されました。行程は、竹林校友会次長による大学見学(正門・礼拝堂・本尊・陶板画)の後、理事会を開催。

吉田宏哲支部長の挨拶に続き、里見前理事長の挨拶では、少子化が進み、都市型と地方型の2極化にて、ブランド大学の小規模・中規模・大規模大学にあっても、四学部以上を擁しないと存続が危ぶまれる懸念があるとの事。また、「同窓会Vol.89」掲載の正門を始めとする校内拡充・整備等の説明もあった。

理事会では、陶山事務局長より、同窓会本部現状報告がなされ、全国にある「同窓会支部」には「活力」があり、活躍をしているので若い方にも母校に関心を持って頂き、協力して頂きたい旨の話があった。

次に支部長より「今後の課題・支部事業と活動」について皆に意見を語り、次の意見が出された。

①今までの会議の流れとして、会議・打ち上げ会が終わっていたが、今回は学長先生の講演会を組み込んでの会議開催であった。今回のように、今後いろいろな先生を招いた講演会などをして頂きたい。

②同窓会会員も年々増えているが、一般の卒業生にも目を向けて頂き、魅力ある同窓会にして頂きたい。との意見もあった。埼玉県支部では、前回12月18日に行なわれた理事会で承認された「職域部会」について支部長より発足の経緯と紹介があり、代表の高橋氏より挨拶があった。

小峰学長より、「日本の精神文化と仏教」の講演について「弁慶はなぜ勳章をよむのか」という学長先生執筆の冊子(NHK出版生活人新書)が配布され、日本人の宗教観は、恥の文化により己を越えたモノを敬う多感な人種であることや、それに基づく大衆芸能と精神文化を比較追求された内容の講演を聞いた。

場所を同窓会ホールへ移し、立食形式の懇親会へ。各先生方や、大学職員の方達と和やかな2時間を過ごし、今回の埼玉県支部理事会の開催に当たっては、大学当局、同窓会本部の懇切な御高配を頂きお礼申し上げます。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

母校正大の現学部体制などについて、冷やかな批判を持っていた同窓生もいただろうが、先生の熱弁に耳をそばだて、目を輝やかせた同窓生が、多かったように見受けられた。

山梨県支部 事務局 秋山秀道

同窓会山梨県支部では、本年度総会を平成21年3月8日(日)に、石和温泉旅館「喜仙」にて開催いたしました。総会に先立ち理事会を開催し、その後総会が開かれ、平成20年度事業報告・平成20年度決算報告・監査報告・平成21年度事業計画について審議がなされ、承認がされました。特に本年度は、大正大学見学ツアーを計画し、久ぶりに大学を訪れました。卒業以来始めて訪れた会員もあって、変貌した大学に驚いて

進むキャンパス総合整備計画

教育設備のさらなる充実、そして環境に配慮した緑豊かなキャンパス再生を目指し、キャンパス整備計画に取り組んでいます。現在「新教育・研究棟（2010年3月完成予定）」「クラブ練習棟（2010年7月完成予定）」の建設、およびランドスケープによるキャンパス美化計画が進行中です。



新教育・研究棟(外観)

8階建。大・小教室、ゼミ室、研究室のほか、カフェテリア、売店、パブリックな学修フロアなどが入ります。



新教育・研究棟(エントランス)

エレベーターの混雑を避けるため、開放的な空間に3階までの幅広い階段が設置されます。



クラブ棟

空手道、剣道、柔道、卓球、カバディなどの練習が可能。新しいクラブ活動等の拠点となります。



工事進捗状況(7/15現在)

写真は新教育・研究棟。写真左下の部分がコンクリート打放し仕上げの吹抜空間となります。

大正大学出版会からのお知らせ

本学教員が執筆した書籍をご紹介します。読書の秋にぜひおすすめしたい新刊です。

ご購入にあたっては下記までお問合せください。

TEL:03-5394-3045 FAX:03-5394-3093



マイノリティの精神医学
— 疾病・障害・民族少数派を診つづけて —
野田 文隆 著
ISBN978-4-924297-62-3
定価5,985円(本体5,700円) A5判 605頁



敢えて主流を排し、文化と精神医学、精神障害者へのリハビリテーションという精神医学の隘路を歩んだ一精神科医の鋭い思考・批判・提言のこめられた一冊。「時の滴る(しずる)」が結晶した渾身の作品集。



久保田正文著作選 — 文学的証言 —
小嶋 知首 編
ISBN978-4-924297-58-6
定価8,820円(本体8,400円) A5判 690頁

文学とともに歩み続けた高潔のまなざし。多くの小説家、文学者を見だし、一方で同人雑誌とその活動を高く評価しつづけた久保田正文。単行本未収録の小説、短歌、評論、随筆、自伝、対談など重要著作を中心に収録し、巻末には年譜・著作目録を附した。文藝評論の泰斗、久保田正文の文学世界。

リニューアルした同窓会報「鴨台会会報」を宜しくお願い致します

今号より、装いもあらたに同窓会報をお届けする運びとなりました。社会情勢が大きく変化する中、本学の教育のさらなる充実を図るため、また同窓生の皆様のライフデザイン、キャリアアップをお手伝いさせていただくため、これからますます皆様と本学との交流が深まっていくであろうと考えます。その拠り所となるべく、情報の発信に努めて参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

皆様の声をお待ちしております

本誌をお読みにになった感想、学生時代の思い出、近況など、皆様の寄稿をお待ちしております。また、先生方やサークルの近況、昔よく行ったお店の今など、取り上げて欲しいトピックスなどありましたら、どうぞお知らせください。

大正大学 総務部 校友会室
〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1(本学内)
TEL.03-5394-3031 FAX03-5394-3014 Eメール:dousou@mail.tais.ac.jp

■大正大学同窓会「鴨台会」より重要なお知らせ

「人事新報社」からのダイレクトメールにご注意ください!

「人事新報社」という企業から、卒業生に対して「大正大学同窓名鑑」の発行および購入を呼びかける案内(往復はがき)が送付されているとの情報が寄せられています。大正大学および大正大学同窓会「鴨台会」とは一切関係ありません。また、「人事新報社」から催促があっても返信する義務は一切ありません。「人事新報社」に関しては、すでに多くの大学や高等学校がホームページ上等で同様の注意を呼びかけております。この件については大正大学および大正大学同窓会「鴨台会」では責任を負いかねますので、くれぐれもご注意ください。